

農業委員会との意見交換会 報告書	
開催日時	令和7年5月15日（木） 午前9時45分～午前11時
開催場所	柳井市役所 3階大会議室
テーマ	人口問題に関する提言書素案について
出席委員	副委員長 田中晴美 委員 川崎孝昭 坂ノ井 徳 篠脇丈毅 長友光子 藤沢宏司 三島好雄 欠席 中川隆志 岩田優美
委員外議員	山本達也 平井保彦 平岡実千男
参加者数	農業委員会委員 11名
主な意見等	○人口減少は全国的な問題でいろいろあるが働く場所が課題である。農業は働く場所はあるが給料が払えない。給料を払えば雇うことができる。農業にとってはこれが一番の課題である。今年はお米の値段が上がって多少は助かる。儲ける中で給料が払えるようにしないとイケない。 ○土地はいくらでもある。本当に人手が欲しい。従業員が欲しい。給料を払うには稼がないとイケないが、稼ぐ手段をどうしようかといういろいろ頑張っている。何かいい案がないか。 ○国は今年度、人手が足りない中で農業を守るための地域計画を策定した。地域計画の外れたところ、辺鄙なところに国が力を入れてくれたら農業もやりやすくなる。今は資機材も高騰し儲けるどころではなく維持していくのが精いっぱい、お米の値段が上がっても当然だ。お米が自由販売になって昔は一俵2万4千円だったが、今は1万2千円ぐらいに下がっている。昔は個人でやっていた農業が、今はひとまとめにしろ、法人を作りなさいということで、提言書にあるような1市4町ではないが、合併とかそういう形になるのではないかな。 ○農地を守るということは国土の保全につながるということも頭の中に入れて農地の保全を考えていただきたい。大雨が降っても田んぼがあれば洪水調整機能ができるので、耕作条件不利農地の営農を継続するような形につなげていただきたい。

	○提言書に農業振興整備計画を見直し企業団地の造成とあるが、見直したらできるのではなくて、計画ができれば変更ができる。極端な例がフラワーランド。計画ができて農用地から除外して、整備計画を変更してできるので、そこを考えた文章にしてほしい。 ○提言書の空き家対策で、市長に聞くと空き家バンクに登録する人がいないということだが物件はいくらでもある。みんなが登録する道筋を作るためには、家は使えるが土地はあるとか、まだ住めるとか分類して登録し、要望があった時に紹介できるような空き家バンク制度を作らないと名前ばかりでは機能しない。空き家バンク制度を知らない人や地元にはいない人の掘り起こしをすれば登録数も増える。 ○農地は3反要件があったが今は撤廃されて少ない面積でも取得できる。今までは農地が付いていたのがネックになっていたが、逆に農地が欲しいという人もいるのではないかな。 ○農業関係の課題は収益面、経営面、土地利用型の経営をどうしていくかということ。今お米の値段が上がっているのに、団体に任せているので秋には終わっている。農業で経営をしていこうと思えば、自分のところにストックして自分で売っていくことが大きな課題である。経営規模を拡大しても大きな倉庫や冷蔵庫の整備が難しいのが現実である。若い世代の経営者はインターネットで直接販売をしている。ストックができる設備を行政のほうで手助けしてもらおうと助かる。生産者自らが団体に頼らず自分が作ったものを自分で販売できるようになれば、雇用面、収入面も改善するので地域雇用につながっていく。 ○農業委員の立場で言うと農地を荒らさないというのが大きな課題である。水の管理とか地域の習慣、農業や林業漁業も保守的で、そこを守らないと生産できないのも事実でなかなか難しい部分がある。国は規模拡大というが、規模拡大もいいが地域コミュニティの崩壊にもつながる。提言の中でそこを改善したら人口が
--	---

増えるかどうかは違う視点になるかも知れないが、地域コミュニティは農業関係では大きな課題である。

○企業団地の確保で、農地を企業団地にするのであればほ場整備事業で税金を突っ込んでいるところは壁が高い。農地を企業団地にするという発想の中で進めていくのであれば、農振を取っ払って広域指定しやっていくしかないが、地権者の反発があるかも知れない。賛同する地権者もあるかも知れないがそこが難しいところでは。仮に広域で指定するというと、余田畑は、ほ場整備はしているが地元の人がいなくなり維持することに非常に苦労している。そういうところであれば可能かも知れない。

○農業委員をしているので近所の人に声をかけているが、一人は女性で、大阪に住んでいる人が田植の時期になると帰ってきて農業をやっている。米を作っている。もう一人は、今まではお米は取りに来るけど手伝いはしていなかった人が、子どもや孫を連れて手伝いに来るようになってきている。声掛けすると違うなと思って、小さなところではあるが集落を守るためにみんなで頑張ろうと言ってやっている。

○空き家バンクに登録したらどうかと言ったら家が片付けられないから登録できないという話を聞いた。空き家は住める状態のものは少ないが土地だけ欲しいという人もおられると思う。住める状態がどれくらいあるか、解体しないといけなところとどれくらいあるか分類して登録したらどうか。

○人口問題は、独身では増えない話で、家庭を持たないと話が進まない話ですが、今若い人の意識がずいぶん変わったと思っている。昔は年ごろになれば当然のように結婚して子ども家庭も持っていた。農業でも兼業農家は当然のように後を継ぐという意識で暮らし育ってきた。結婚して暮らしていくためには収入がなければ成り立たない話なので、職場というのは大事なのだろうけど、当然のように結婚して家庭を持つという意識が薄れている。今の時代に人口が増えるというのは難しい問題ではないか。解決策の教育のところで家庭を持つことの意義、将来への希望という文言

	があるがこの辺りなのかなと。根本的に意識を変えないと、ただ収入が増えたから人口が増えるという問題ではないと思っている。 ○農業委員になって農業者がどうしたら自立できるのか考えて地元の農業者にも聞いてみたら、どうやって収益を上げたらいいか、どう経営していったらいいのか分からないという声が多かった。経営という視点でアドバイスができる体制を整えるのが1つ重要なのかなと思う。農林水産課で定例会があるので聞いてみると、収益を上げる相談には乗るが経営までは市は携わらないということだった。そういうことなら、なおさら経営をサポートするシステムが必要ではないか。若い農業者の方が農地を受けようと思っても、水路などが老朽化して一人で直すのも大変。経済建設課も見には来てくれるが直ぐのことにはならないということなので、耕作につながらないところもあるので、そこがうまくいくようになればと思っている。
--	--